

C 区

9, 3 4 4

(3 7 年 度)

養 鯨 餌 料 試 験

(オ ヒ ヨ ウ 精 巢 の 餌 料 価 値)

技 師 立 川 互

6
1 2
1 0
9
1 0
9
3 4
2 0
3 2
3 2

試 験 の 目 的

ニジマス稚魚用餌料として、現今多くの養魚場が冷凍[↑]ヒヨコを使用しているが、北洋産オヒヨウ精巢の生産がかなりある模様であり、だいたいヒヨコと同じ位の価格で販売されるといふことであるのでヒヨコと比較して稚魚餌料に試用してみた。

試 験 方 法

ニジマス稚魚 0, 2 月前後のものを供試魚として 2 区設定し、一方はオヒヨウ精巢、他はヒヨコで飼育した。餌の作り方はどちらも 3 m m 目チヨツパーに 2 回通してから外割で 8 ~ 1 0 % の α 化小麦澱粉を混ぜてよく練つた。

飼育期間は昭和 3 7 年 4 月 2 7 日より 6 月 2 1 日まで 5 5 日間、巾 4 5 c m、長さ 1 8 0 c m、水深 3 0 c m の試験水槽で飼育した。その間の水温は 1 0 ~ 1 6 ° C であつた。

給餌は毎日体重の 1 0 ~ 1 5 % の量を 3 回に分けて与えた。

試 験 の 結 果 及 び 考 察

どちらもよく食べるが、オヒヨウ精巢は水によく浮くため特に好んで食べるようであつた。給餌中の餌料ロスについてはヒヨコは水に散り易くて水が濁つたが、オヒヨウ精巢は水にあまり溶けず濁らなかつた。又、ヒヨコ区では、多量のフンが山積したに対してオヒヨウ精巢区ではフンが少なく、水槽の底に溜まることはなかつた。以上の通り、オヒヨウ精巢区はヒヨコ区に対して飼育管理上多分に利点があるが、結果の成績はオヒヨウ精巢区は極めて悪く、1 0 日目頃から斃死魚が増え出し、試験終了時には腹水症状を呈するものが多く、このまゝ継続したら全滅するのではないかと思われた。

従つてオヒヨウ精巢は栄養上何らかの欠陥があるものと推定される。

試 験 結 果 表

		オビヨウ精巢区	ヒヨコ区
4.27	放 養	ビ 数	4 6 7 3 ビ
		重 量	1 0 0 0 g
6. 1	取 揚	ビ 数	4 4 7 3 ビ
		重 量	1 9 4 0 g
"	放 養	ビ 数	2 3 3 6 ビ
		重 量	1 0 0 0 g
6.20	取 揚	ビ 数	2 2 0 3 ビ
		重 量	1 2 9 0 g
4.27 ~ 6.1	死 魚 数	5 2 7 ビ	1 3 3 ビ
6.1 ~ 6.20	"	7 2 6 ビ	5 1 ビ
4.27 ~ 6.1	給 餌 量	6 1 7 5 g	6 1 7 5 g
6.1 ~ 6.20	"	3 8 4 4 g	3 8 4 4 g
4.27 ~ 6.1	増 肉 係 数	1 1 , 9	6 , 6
6.1 ~ 6.20	"	1 3 , 3	1 2 , 4